

令和5年度

市川町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症啓発
 - ・認知症個別相談対応
 - ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築
 - ・認知症対応力向上のための支援
（認知症カフェ、家族会、サポーター養成講座）
 - ・相談支援体制構築（認知症初期集中支援事業他）

報告者氏名:岡本 舞

市川町 認知症施策全体図

○認知症対策の推進

◎施策の展開方向

①普及・啓発活動の推進…一般住民をはじめ認知症の正しい知識の普及啓発

②相談体制の充実…本人の状態に応じた適切な支援を行えるような体制整備

③認知症支援サービスの充実

- ・介護者への支援…家族会を開催し情報交換を行い、日頃の悩みや不安を解消
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの構築…行方不明になる可能性のある方に事前登録して、日頃から地域で見守り、行方不明になった際にすみやかに発見活動を開始
- ・ボランティアの育成…認知症サポーター養成講座の実施、やすらぎボランティアを派遣し、家族の介護疲れをやわらげる一助として支援

④認知症の予防対策の推進

- ・認知症予防を目的としたプログラムの推進…予防を目的にしたプログラムの導入を検討し、認知症を推進行させない工夫を図る
- ・認知症地域支援推進員の配置…地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う
- ・認知症初期集中支援チームの設置…認知症の人やその家族に早期に関わるチームを配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築

やすらぎボランティア交流会

○事業概要

- ・やすらぎボランティアは65歳以上の認知傾向にある方を対象に、やすらぎ支援員(ボランティア活動登録者)が、話し相手として訪問。訪問は1回2時間まで、月8時間までとしている。本人の支援、家族の介護疲れをやわらげる一助として取り組みを行っている。
- ・交流会はボランティア活動をしているボランティアさんを対象に悩みや不安など他の支援員と情報交換し、不安を解消し支援員のモチベーションの維持向上を図り、今後の活動に生かしてもらえるよう開催した。

○事業評価

- ・今年度初めて事業を行い、ボランティア登録者9名のうち、6人が参加。
- ・内容は自己紹介、やすらぎボランティアについて確認・注意事項の説明、認知症の症状・関わり方の再確認、ケアネット・町の事業の紹介を行い、情報交換を行った。
- ・情報交換では訪問時、「お茶を入れてもらった場合はどうしているか」、「話しの話題に困る、同じ話しばかり言う」などの声があがり、自身が活動時している対応を話され、参加者は納得され「参考にしてみる」と話される。
- ・今までボランティアさん同士が、顔を合わすことはなかったため今回交流会を開催したことで、「今後の活動の励みになり、来年度も会の開催を」との声が聞かれた。

- 最後に・・・

市川町は高齢化率が高く、専門職の支援者だけでは支援する事も限られてくる。やすらぎボランティアさんには認知症サポーターになっていただき、ボランティア活動をお願いしている。担当者としては、やすらぎボランティアは一人で活動をしているため、不安なことも多く一人で抱え込まれていないか、心配な面もあった。月一回の報告書をいただくのだが、その時に伺うことはあったが、それ以外にも普段感じておられる思いを交流会を通して聞いたので、担当者も交流会を開催できて良かったと感じる。

今年度もやすらぎボランティア養成講座・交流会の開催を予定としている。地域のために何かしたいという思いで皆さん活動をされているため、その支援者さんを大切にしていかなければならないと改めて感じる活動であった。